

～ ようこそシドニーへ ～

CNCP サポーター、Kumagai Australia 秦泉寺 哲



NPO 法人「スリム Japan」の国際会員である橋爪伸浩所長の部下として Kumagai Australia に勤務している私が、今回の 5 日間にわたる視察団のアテンドをすることになりました。それぞれの訪問地等における詳細は、参加された 8 人の方々が手分けして書かれることになっていますので、私の方は初日のシドニー地域での状況と、それ以降 4 日間の概要をお伝えすることにしました。

11 月上旬の金曜日の朝、寒さの続く日本と異なり、夏空のシドニーで SLIM Japan, CNCP による視察旅行が始まりました。シドニー国際空港では到着ゲートにて、夜行便で日本からの総勢 8 名の一行と合流しました。有岡理事長を除き初対面でしたが、長旅の疲れを感じさせない元気ではつらつとした方々ばかりでした。

そんな初日、ホテル到着後荷物をフロントに預けて、シドニー市内の視察。アンザック・メモリアルやセント・メアリー大聖堂などを見ながら初夏の緑が美しいハイパークと王立植物園を北上し、シドニーの海の玄関であるサーキュラーキーまで約 1 時間散策しました。そして右にはオペラハウス、左にはシドニーハーバーブリッジという世界三大美港の一角を占める絶景を見ながら遅い昼食を取りました。ビッグバーガーや大盛りのパスタに、もちろんオージービールを注文しましたが、それにレモンを押し込んでピンのまま、まるでラムネを飲むようにというのが当地流と説明しました。ぐっと喉越しにはいかないのですが、食べ物を終わってもまだ少し残っているといった次第で話がはずみました。



王立植物園
(この下をハーバートンネルが通っている)

そこで 1 時間ほどすごし、今後の予定の確認や、あらかじめ用意しておいたオパールカード（日本のスイカに相当）、20 ドルの現金などを手渡した後、すぐ横のサキュラーキー・フェリーターミナルから船で対岸のノース・シドニーに移動しました。幸い快晴であったこともあってシドニー湾が一望できる絶景で、ハーバーブリッジやオペラハウス、そしてシドニー市内の高層ビル群が動画のように向きを変えて、見るものを楽しませてくれました。



フェリーから見たシドニー湾の光景
(左側：オペラハウス、右側：ハーバーブリッジ)



最初に訪れたのがタロンガ動物園で、自然の斜面に造られておりユーカリの林の中に動物舎が点在しているといった大きさで、1時間半ほどの時間ではすべてを見回れないのでコアラ他オーストラリア特有の動物を中心ということにしました。ただそのコアラ園は3時までで、それらを遠くに眺めながら、手前のユーカリの木に後ろ向きの2匹を身近に見届けただけに終わってしまって、申し訳ないことをしました。



その後はモスマンの高級住宅街を散策しましたが、夏時間が適用されており、午後7時近くでも明るく、住宅の庭のジャカランダが満開で楽しめました。夕食は、オーストラリアと言えばオージービーフと言うことで、有名ステーキハウスで数キロもある骨つき塊肉のトマホークステーキを注文。しかし、全員であっという間に食べてしまいました。ホテルに戻ってチェックインをしたのが10時を回っていたのでしょうか。そんな行きつ戻りつの、結構ハードな1日目はとりあえず終わりました。

ステーキ食会
とトマホーク



翌2日目は急遽決定したキャンベラ視察ツアー。朝7時出発、帰りは夜の8時を予定している片道約300kmの弾丸日帰り首都視察ツアーです。到着したキャンベラでは、まずは人工都市であるキャンベラ設立の歴史等が学べるNational Capital Exhibitionセンターへ。パーラメントハウス（国会議事堂）、戦争記念館などを訪問。3日目も朝早くから世界遺産のブルーマウンテンを視察予定であるにも関わらず、ホテルに戻ったのは夜11時過ぎと、かなりの強行軍となってしまいました（3日目は同行していないため省略）。

4日目は、シドニー環状道路視察およびKumagai Australiaとの意見交換。

車でホテルを出発し、まずはシドニー中心部からシドニー空港へと繋がるイースタン・ディストリビューターに乗り、シドニーハーバートンネルを通過して、シドニー北部へ向かい、M1、M2フリーウェイ、レーンコーブトンネルとシドニー環状道路を次々と視察。シドニーハーバートンネル事務所でのトンネルPFI事業の概要について説明を受けた後、Kumagai Australiaでオージーサンドイッチでの昼食をともにしながら、他のプロジェクトのことなども話しての懇談会。

最終日は、NSW州道路局等とのワークショップを行うため、近年開発が最も進んでいるシドニー西部のパラマタへ。豪日双方からとくに道路の維持管理に関連してプレゼンテーションが発表され、それに加えてKPMGのRuth Lawrence女史のソーシャルインパクトに関する話題提供もあって、活発な議論が行われました。その後シドニーに戻り、夜行便までの時間を利用して、シドニー大学や再開発により人気の観光エリアとなった、ダーリングハーバーへ。その後、ホテル近くのパブで合流し、最後の乾杯。これにて、5日間の短く、非常に内容の濃いSLIM Japan一行のシドニー視察は幕を閉じました。

この5日間で、私も知らないシドニーやオーストラリアの事を学べると共に、様々な分野のプロフェッショナルであるSLIM Japan, CNCPの方々から、色々な事を教えていただきました。

